

**今日のキーワード** 今年を振り返るキーワード③『AI』と『EV』～加速する技術革新～

昨年、『AI（人工知能）』を搭載した囲碁プログラムがプロ棋士に勝利したことなどにより注目度が高まっている『AI』。私達の身近でも『AI』を活用した様々な製品やサービスが見られるようになりました。また、『AI』の代表例である自動運転と並び、今年の自動車業界では『EV（電気自動車）』の技術革新も注目されました。今後も加速する技術開発などにより、『AI』や『EV』は私達の日常により浸透していくことが予想されます。

**ポイント1** 『AI』を活用した製品やサービスが次々と誕生  
ディープラーニングや画像認識の精度向上などにより『AI』は飛躍的に進化

- 近年飛躍的に進化した『AI』技術の特徴には、“ビッグデータ”（膨大なデータ）を活用し、それを“ディープラーニング”（深層学習）と言われる人間の神経構造を模した学習法や精度が向上した画像認識によって、大量かつ迅速に、正確に処理できることなどが挙げられます。こうした特徴を活かし、医療業界では大腸内視鏡検査時に大腸がんを画像診断するシステムの開発や、金融業界では『AI』によるファンド運用や顧客への運用アドバイスなど、『AI』を活用する製品やサービスが次々と生まれています。
- 今年の秋には、会話するように音声で操作ができるAIスピーカーの日本新発売が相次ぎました。AIスピーカーは、IoT（モノのインターネット）によって連携する様々なサービスが利用できる上、利用者との会話を学習することで、会話の内容やサービスが徐々に利用者へ寄り添ってくとされており、注目されています。

**ポイント2** 自動運転車とともに注目が集まった『EV』  
自動車各社は新たな『EV』のコンセプトカーなどを発表

- 『AI』の代表的な活用例である自動運転が注目される自動車業界では、今年は『EV』にも注目が集まりました。特に欧州や中国では、環境規制の面などから、従来のガソリン車・ディーゼル車から、『EV』やハイブリッド車への転換が進み始めています。
- 東京モーターショーをはじめとする世界の名だたるモーターショーでも、今年は『EV』や自動運転技術を搭載したコンセプトカーなどの展示が多く見られました。



**今後の展開** 技術開発競争により、新しいサービスを手にする機会が増えそう

- 今年を振り返ると、テレビや新聞などでは『AI』を活用したサービスが多く紹介され、AIスピーカーに代表されるように『AI』は私達の身近な存在になりつつあります。また、自動運転車や『EV』などでも日々技術革新が進んでいます。今後も企業や国家間の激しい技術開発競争を通じた技術革新の進捗によって、新しい製品やサービスを手にする機会が増えそうです。

**ここもチェック!** 2017年12月25日 今年を振り返るキーワード②『トランプ政権1年目』  
2017年12月22日 今年を振り返るキーワード①『欧州選挙イヤー』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。